

令和 5 年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

	課題番号	23837467
研究テーマ名	外部環境の変動が農水産業の生産性へ及ぼす影響の検証と改善方法に関する研究	
委託研究課題名	外部環境の変動に対する水産業の対応策・影響緩和策に関する研究	
研究実施期間（西暦）	2023 年度 ～ 2025 年度（3 年間）	
代表機関・研究開発責任者	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 阪井 裕太郎	

1 研究の進捗状況等

本年度は事業期間が 4 か月しかなかったことから、主に小課題④にウェイトを置く形で研究を進めた。小課題①では予定通り個票データ入手した。小課題②では現地調査を行いつつデータ収集を続けている。小課題③では漁業者との打ち合わせを継続的に実施し、2023 年までの漁船レベルのデータ入手した。小課題④では大規模なオンライン選択実験を実施済みで、さらに 3 月 7－9 日にリアル選択実験を実施予定である。総じて研究の進捗状況は良好といえる。

① 漁業の生産性及び外部要因の影響の解明

漁業センサス(2003-2018)及び漁獲統計(2007-2021)の個票データの研究利用申請を行い無事入手した。データのクリーニングを進め、包絡分析法に使用するインプットとアウトプットの変数を整理した。さらに試験的な分析を実施して、分析に耐えるデータセットであることを確認した。

② 情報通信技術による生産性向上効果の解明

ライトハウス株式会社と連携し、研究に協力してくれる漁業者を引き続き募っている。オーシャンソリューションズテクノロジー株式会社がサービスを展開する沖縄県石垣島で現地調査を実施した。城ヶ崎海岸富戸定置網株式会社を複数回訪問してヒアリングを行うとともに、静岡県全ての定置網の日別網別魚種別漁獲量データを 2006 年から直近まで入手した。

③ 漁業管理制度による生産性向上効果の解明

漁業者との継続的な打ち合わせにより、個別漁獲割当管理 1 年目の成果について定性的な情報をまとめた。また、2023 年末までの個別漁船の操業データや経営データについて入手した。

④ 情報表示による魚価向上効果の解明

12 月に 2 度の予備実験を行って CFP ラベルのデザインについて絞り込んだうえで、1 月に約 8000 人の参加者を募ってオンライン選択実験を実施した。このデータは現在解析中である。またこの結果を踏まえ、3 月に 240 名の参加者を募ってリアル選択実験を行うための準備を進めている。

(注 1) 課題番号は、e-Rad で付与される課題 ID (8 桁) を記載すること。

(注 2) 全研究期間をととしての研究全体の進捗状況を 5 行程度簡潔に記載してから、当該年度に研究を実施した研究項目ごとの進捗状況を 3 ～ 5 行程度簡潔に記載すること。

(注 3) 学会発表、論文発表等成果等公表の状況を e-Rad で報告するとともに、リストを添付すること。

(注 4) 農林水産政策研究所のホームページにて公表するため、未公表データや知的財産等に関する事項については、十分に注意して作成すること。また、公表できる内容のみを記載すること。